



ねやがわPR大使を務める又吉直樹さん（お笑い芸人・芥川賞作家）が、寝屋川市から着想を得たアパレルブランド水流舎（つるしゃ）のポップアップイベントのため、寝屋川市に帰ってきました。それに伴い2月、市立中央図書館でインタビューを行いましたので、その一部始終を紹介します。

スペシャルインタビュー

# PR大使又吉直樹さんが 地元寝屋川市を語る

## 後編

前編は右のQRコードから見ることができます。



### 芸人になったきっかけは寛平師匠

芸人になりたいという目標は、小学生の時からありました。同世代の子よりちょっとだけませたと思うんですけどね。親は違いましたけど、周りの大人にすごく子ども扱いされて、「この人うそついてるな」とか、「自分がやりたいようにコントロールしようとしてるだけやな」とか、大人のずるさが見えるのがすごく嫌だったんですけど、芸人ってその真逆で、子どもよりアホじゃないですか。子どもから見ればその方が信用できますよね。中でも間寛平師匠がすごく好きで、「この人何してるんやろ」とって。吉本新喜劇で、杖を持って暴れまくって、「止まると死ぬんじや」とって言うから、誰も止められない。そんなおじいさんが客席に向かって、「がんばっとるか」とって。それがかっこ良かったですね。哲学を感じたというか、めっちゃ迷惑かけてる奴が、周りがかんばってるか気にするっていう、そういうところにひかれましたね。日常をぶっ壊すにはこんな方法もあると教えてくれたのが、お笑いであり寛平師匠でした。

### 本との出会いは元相方の家

中学時代の友だちでピース結成前の元

相方がいるんですが、そのお母さんが本好きでした。家にたくさん本があったから、「これ借りていいですか」とって言うのと、「うちの子があまり読まへんから又吉君持って行っていいよ」とって言ってくれたので、何回も借りて戻して、文庫棚の本を読破しました。それが本との出会いですね。昔はそんなに本を買えなかったんで、図書館とか人から借りて読んでました。高校時代、1年間で本をたくさん借りていて生徒のランキングが貼り出されて、1学年に11クラスくらいあったんですけど、僕はサッカー部なのに5位とかに入ってる、「何でランキング入ってるねん」とって友だちにウケてましたね（笑）。

### 本との間に結ばれた信頼関係

本は買わないと作家にお金が入ってこないと言う人もいますが、そもそも図書館とか古書店とかがなかったら、本を読む人いなくなるでって思うんですよ。働いて収入を得られるようになって、趣味に使えるお金って限られてるじゃないですか。子どもの頃から本に慣れ親しんでいない人が、大人になったからって急に本を読み始めないですよ。本を読めるきっかけのある環境が必要だと思います。お世話になった分、今は借りられる環境があっても、自分は買って読

### 動画

PR大使又吉さんが  
市立中央図書館に  
やってきた！

又吉さんが市立中央図書館を訪れた当日の様子は下のQRコードから。最後には又吉さんからのメッセージもあります。



もうと思います。図書館とかを否定してはるんではなく、むしろ「みんなのもの」と理解してるので、図書館を利用したい人に譲って、自分は全部買います。そう思えるのは、図書館で読める環境があったから、本って面白いなと感じ、本と僕との間に信頼関係が結ばれているからなんです。僕の本を図書館で借りて読んでくれた子どもが「こいつこんな文章を書くんや」と思い、大人になって、買って読んでみようと思わせるかどうか、表現する人間としての勝負どころだと思います。

